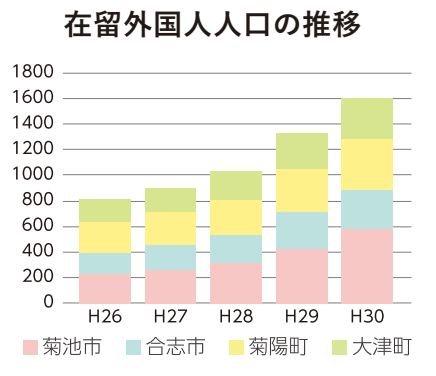




ヘレンさんが合志市に住み始めたのは約4年前のこと。当初は近所付き合いに不安を抱いていましたが、今では日本人の知人がたくさんできました。国の垣根を低くしてくれたのは愛犬のココちゃん。「柴犬を散歩する外国人が珍しかったのかもしれない。みんなが声をかけて

地域の人の優しさに感謝

日本人の夫と結婚した、マクナマラ・ヘレンさん（合志市在住・イギリス出身）。約20年にわたる日本生活で経験した日本人との交流を聞きました。

暮らす

くれて、ココちゃんが架け橋になってくれた」と目を細めます。隣に住む松見あづささんとは互いに土産を渡したり、お裾分けをしたりする仲。ヘレンさんが母国に帰省する時には、松見さんが長期でペットの面倒を見ます。「預かり先を探しました

「困っている時はお互い様。国籍は関係なく隣人として普通に交流しただけです。自然と仲良くなりましたね」と笑います。「地域の人たちが温かく受け入れてくれて、今の生活はとても楽しいです」。地域に溶け込むことができたヘレンさん。その裏側には、住民たちの温かな支えがありました。



1. ヘレンさんのペットは松見さんにもすっかり懐いている 2. 武山鑄造には、ベトナム語のあいさつを掲示 3. 菊陽町で外国人教育を企画した寺岡さん 4. パンダの会ではクイズやダンスを交えて中国の文化を児童に伝えている

外国人との共生を目指して

車の部品を製造する武山鑄造株式会社（大津町）は平成30年から技能実習生を採用しており、従業員90人のうち8人が20歳代のベトナム人。同社の長縄義和取締役工場長は「スマートフォンの翻訳機能と簡単な日本語で、わかりやすく伝えるよう心掛けています。仕事の指導は動画やイラストなどを駆使し、少しでも働きやすい環境になるよう工夫しています」と説明します。実習生のグエン・ヴァン・タックさんは「他の実習生と一緒に生活しているのが心強い。会社も親切に支えてくれるので、とてもよい環境で働いています」と公私の充実を明かします。武蔵ヶ丘小学校（菊陽町）では、外国にルーツをもつ児童へ

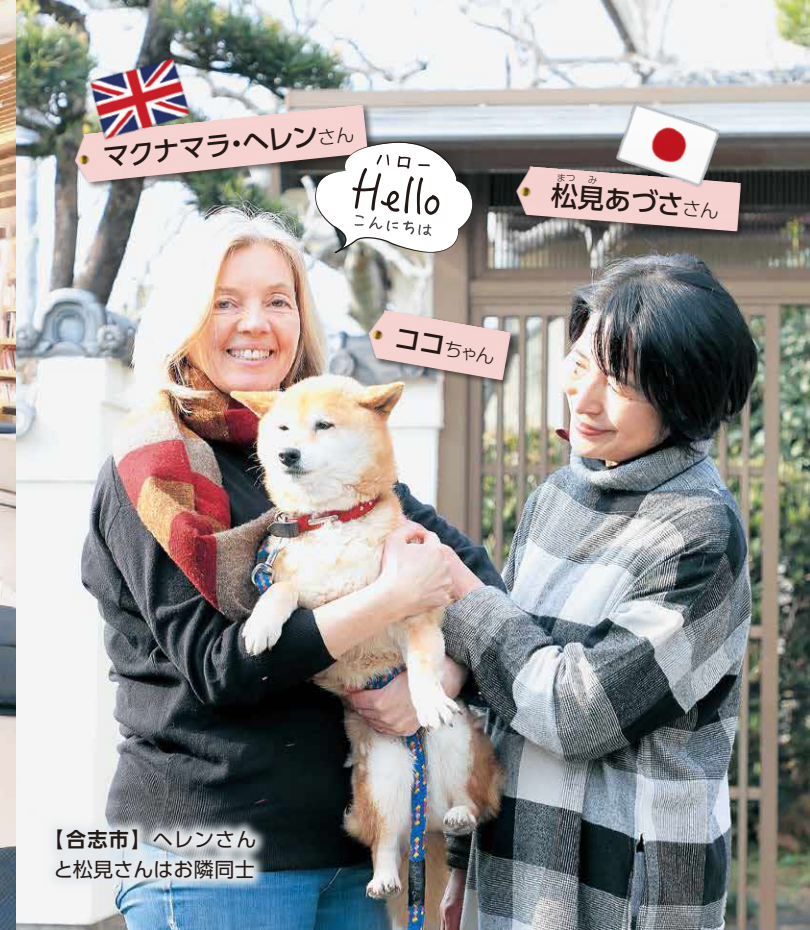
の支援や、日本の児童が主にな国の文化を学ぶ「パンダの会」の活動が長く続いています。同校の寺岡良介教諭が、言葉の違いで生活や勉強に苦労する児童を見たことがきっかけで、平成11年に始動。在留邦人2世の妻として昭和62年に来日した中国出身の庄山好子さんに声をかけました。庄山さんは同町の日本語指導員に就任。パンダの会のほか家庭訪問の通訳、運動会の中国語放送などを続けています。庄山さんは「地域の人が支えてくれたおかげで、日本に馴染めた。次は私が恩返しする番」と話します。寺岡さんは「日本と外国の共生が広がると、差別や偏見にとらわれず他国を知る機会になる。国際理解のためにも、活動を続けていきたいですね」と先を見つめています。

ふれあう

近年は、多くの外国の人たちが日本で仕事に就いています。さまざまな形で貢献する外国人にスポットを当て、現場の言葉を取材しました。



【菊池市】金さんは日本人の妻・登志子さんと結婚して22年目



【合志市】ヘレンさんと松見さんはお隣同士

おとなりさんはかいこくじん



日本で暮らす外国人は、年々増えています。お互いが分かり合うための第一歩は、まず相手を理解すること。実際に地域で暮らし、働く外国の人たちにスポットを当てました。



グエン・ヴァン・タックさん

長縄義和取締役工場長

【大津町】武山鑄造では、共に働くものとしてお互いを尊重し、勉強しながら働いています



【菊陽町】日本の児童に中国の魅力を伝える庄山さん

庄山好子さん

你好
こんにちは